

## 平成19年茨城県内各港の港勢（速報）

### ◎はじめに

「港湾調査」は、統計法（昭和22年3月26日法律第18号）に基づく港湾調査規則（昭和26年3月10日運輸省令第13号）により、調査対象港湾で取り扱われる貨物量につき、各月及び各年を調査期間として行われるものです。

今回の発表数値は、平成19年1月から12月までを調査期間とし、県内の重要港湾（鹿島港、日立港、大洗港、常陸那珂港）について港湾課において取りまとめたものです。

なお、この数値は速報値であり、数字の単位未満は四捨五入しているため、合計の数字と内訳の数字が一致しない場合があります。

### ◎各港の取扱貨物量

#### 1 重要港湾（鹿島港、日立港、大洗港、常陸那珂港）計

総取扱貨物量	89,113千トン	外  貿	47,484千トン
		(輸出	3,762千ト、  輸入 43,722千ト)
		内  貿	41,628千トン
		(移出	24,616千ト、  移入 17,013千ト)
内公共埠頭分	24,026千トン	外  貿	2,405千トン
		(輸出	391千ト、  輸入 2,014千ト)
		内  貿	21,621千トン
		(移出	10,630千ト、  移入 10,991千ト)

平成19年における県内重要港湾の総取扱貨物量は89,113千トンで、前年より8,017千トンの増となった。外貿が47,484千トンで前年より4,598千トンの増、内貿が41,628千トンで前年より3,419千トンの増であった。

外貿について輸出入別にみると、輸出が3,762千トンで前年より46千トンの増、輸入が43,722千トンで前年より4,553千トンの増となった。

内貿について移出入別にみると、移出が24,616千トンで前年より2,046千トンの増、移入が17,013千トンで前年より1,372千トンの増となった。

公共埠頭における取扱貨物量は、前年より2,248千トン増の24,026千トンとなっている。

公共埠頭における外貿は2,405千トンと前年より378千トンの増、内貿が21,621千トンで前年より1,870千トンの増となっている。

外貿について輸出入別にみると、輸出が391千トンで前年より70千トンの増、輸入が2,014千トンで前年より308千トンの増であった。内貿について移出入別にみると、移出が10,630千トンで前年より1,042千トンの増、移入が10,991千トンで828千トンの増となった。

## 2 鹿島港

総取扱貨物量	65,218千トン	外貿	44,344千トン
		(輸出)	3,424千トン
		(輸入)	40,920千トン
		内貿	20,873千トン
		(移出)	14,301千トン
		(移入)	6,572千トン
うち公共埠頭分	2,320千トン	外貿	1,322千トン
		(輸出)	71千トン
		(輸入)	1,251千トン
		内貿	998千トン
		(移出)	381千トン
		(移入)	617千トン

平成19年の総取扱貨物量は、前年より6,699千トン増の65,218千トン（前年比111.4%）であり、このうち外貿貨物量は44,344千トンで前年より4,875千トンの増（前年比112.4%）、内貿貨物量は20,873千トンで前年より1,824千トンの増（前年比109.6%）であった。

外貿貨物のうち、輸出貨物量は前年より33千トン減の3,424千トン（前年比99.1%）で、主要取扱品種は鋼材、化学薬品であった。輸入貨物量は前年より4,908千トン増の40,920千トン（前年比113.6%）で、主要取扱品種は鉄鉱石、原油であった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は、前年より1,113千トン増の14,301千トン（前年比108.4%）で、主要取扱品種は鋼材、石油製品であった。移入貨物量は前年より711千トン増の6,572千トン（前年比112.1%）で、主要取扱品種は石灰石、重油であった。

鹿島港の総取扱貨物量のうち、公共埠頭における取扱貨物量は、前年より583千トン増の2,320千トン（前年比133.5%）であり、このうち外貿貨物量は1,322千トンで前年より300千トンの増（前年比129.3%）、内貿貨物量は998千トンで前年より283千トンの増（前年比139.6%）であった。

外貿貨物のうち、輸出貨物量は前年より6千トン減の71千トン（前年比92.1%）で、主要取扱品種は鋼材、鉄鋼であった。輸入貨物量は前年より306千トン増の1,251千ト

ン（前年比132.3%）で、主要取扱品種は動植物性製造飼肥料、非金属鉱物であった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は前年より107千トン増の381千トン（前年比139.0%）で、主要取扱品種は鋼材、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品であった。移入貨物量は前年より176千トン増の617千トン（前年比140.0%）で、主要取扱品種は砂利・砂、動植物性製造飼肥料であった。

### 3 日 立 港

総取扱貨物量	5,830千トン	外  貿	602千トン
		（輸出	31千トン  輸入  571千トン）
		内  貿	5,228千トン
		（移出	2,533千トン  移入  2,695千トン）
内コンテナ貨物量	16千トン	内  貿	16千トン
		（移出	4千トン  移入  12千トン）

平成19年の総取扱貨物量は、前年より634千トン増の5,830千トン（前年比112.2%）であり、このうち外貿貨物量は602千トンで前年より13千トンの増（前年比102.3%）、内貿貨物量は5,228千トンで前年より621千トンの増（前年比113.5%）であった。

外貿貨物のうち、輸出貨物量は前年より11千トン増の31千トン（前年比152.4%）で、主要取扱品種は非鉄金属、完成自動車であった。輸入貨物量は前年より3千トン増の571千トン（前年比100.5%）で、主要取扱品種は完成自動車、非金属鉱物であった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は前年より426千トン増の2,533千トン（前年比120.2%）で、主要取扱品種は完成自動車、再利用資材であった。移入貨物量は前年より195千トン増の2,695千トン（前年比107.8%）で、主要取扱品種は石油製品、完成自動車であった。

日立港の総取扱貨物量のうち、コンテナの取扱貨物量は、前年より44千トン減の16千トン（前年比26.9%）であった。

また、コンテナの取扱個数は、2,868TEU（前年比34.0%）であった。

主なコンテナによる主要取扱品種は、移出で産業機械、再利用資材、移入で染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品、化学肥料であった。

#### 4 大洗港

総取扱貨物量	13,843千トン	内  賃	13,843千トン
		(移出	7,022千トン  移入 6,821千トン)
内フェリー貨物量	13,816千トン	内  賃	13,816千トン
		(移出	7,009千トン  移入 6,807千トン)

平成19年の総取扱貨物量は、前年より918千トン増の13,843千トン（前年比107.1%）であった。

内賃貨物のうち、移出貨物量は前年より502千トン増の7,022千トン（前年比107.7%）、移入貨物量は前年より416千トン増の6,821千トン（前年比106.5%）であった。

大洗港の総取扱貨物量の99.8%を占めるフェリー輸送貨物は、前年より943千トン増の13,816千トン（前年比107.3%）であった。

#### 5 常陸那珂港

総取扱貨物量	4,223千トン	外  賃	2,538千トン
		(輸出	307千トン  輸入 2,231千トン)
		内  賃	1,684千トン
		(移出	759千トン  移入 925千トン)
内コンテナ貨物量	106千トン	外  賃	71千トン
		(輸出	8千トン  輸入 63千トン)
		内  賃	36千トン
		(移出	7千トン  移入 29千トン)

平成19年の総取扱貨物量は、前年より234千トン減の4,223千トン（前年比94.7%）であり、このうち外賃貨物量は2,538千トンで前年より290千トン減（前年比89.7%）、内賃貨物量は1,684千トンで前年より56千トンの増（前年比103.4%）であった。

外賃貨物のうち、輸出貨物量は前年より68千トン増の307千トン（前年比128.2%）で、主要取扱品種は産業機械、完成自動車であった。輸入貨物量は前年より358千トン減の

2, 231千トン（前年比86.2%）で、主要取扱品種は石炭、非鉄金属であった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は前年より6千トン増の759千トン（前年比100.8%）で、主要取扱品種は完成自動車、製造食品であった。移入貨物量は前年より50千トン増の925千トン（前年比105.7%）で、主要取扱品種は完成自動車、紙・パルプであった。

常陸那珂港の総取扱貨物量のうち、コンテナによる取扱貨物量は、前年と同額の106千トンであり、外貿コンテナが前年より32千トン減の71千トン（前年比68.9%）、内貿コンテナは36千トンである。

また、コンテナの取扱個数は19,440TEU（前年比120.1%）であった。

主なコンテナによる取扱品種は、輸出で染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品、非鉄金属、輸入で紙・パルプ、非金属鉱物で、移出で産業機械、再利用資材、移入で染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品、紙・パルプであった。